



# 運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和元年12月号 第202号

(令和元年12月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール [tou-asu@netjoy.ne.jp](mailto:tou-asu@netjoy.ne.jp)

## ◆都民フォーラム「地域活動は、今」続報

前月号に続き、フォーラムの内容について、ご紹介します。参加された3団体の皆さんは、それぞれの地域活動での課題として、イベントの参加者が思うように増えない、成果がなかなか上がらない、会員の高齢化などが提起されました。

その対応策として、加入に関しては年齢制限を廃する、区報を活用した会員の募集、乳幼児向けの内容も盛り込んだ盆踊り大会の実施など、知恵を絞って様々な努力をしている旨のお話が出されました。一方、地域活動を進めていくうえで大切なこととして、高木町の櫻井さんから「行事の後には必ず反省会を行い、出された意見等の中から一つでもできることを実践、こうした当たり前のことを諦めずに粘り強く継続していくことである」との大変、説得力のあるお話がありました。

また、カタクリの会の磯崎さんは、「会の存続は、会員一人ひとりが、美しい心と思いやりを持

って、皆が会を育て守る気持ちになり、それぞれが与えられた役割を果たすことが重要である」、清流にする会の山本さんは、「子どもたちが川遊びを楽しみ、親しんでほしいとの願いで活動しているので、辞める人はいない。高齢になっても各自が自分の出来ることで協力している。また、中・高生のボランティア体験の受入や小学校の出前講座などで、活動へのPRを行っている」とのお話があり、会の存続や活動の継続性などの課題にも、前向きに取り組んでいる様子が伝わってきました。

藤本事務局長から、「今年度の都民フォーラムは、地域で活動している実態を踏まえて、今後の東京のあすを創る運動のあり方を考える機会として、新しい時代にふさわしい都民フォーラムとして開催しました」と、改めて開催の主旨を説明し、最後に田丸副会長の閉会の挨拶で終了しました。



おじゃまします 事務局です<116> 

## ◆みどりネットKoto～江東区・花とみどりのお散歩隊



清澄白河花壇の会の皆さんとお散歩隊参加者

12月初旬、江東区・花とみどりのお散歩隊(深川清澄編)に参加させていただきました。東西線門前仲町駅からほど近い、深川不動、富岡八幡宮に隣接した深川公園に午前10時に集合し、清澄庭園まで地域

の方々で丹精を込めた花壇を見ながらのお散歩である。主催は江東区土木部施設保全課という「お散歩」とは一見似つかわしくない区役所の部署ですが、実際の案内、説明は生活会議の<みどりネットKoto>の代表美濃又さんと東方さんのお二人。ここ江東区では、公共緑地(区立公園や区道の植樹帯及び緑道等)の花壇を利用し、グループで花や緑を育て、地域の憩いと交流の場となる<コミュニティガーデン>活動を行っています。現在、区内43団体、1000人を超える方々が登録して活動しています。

このコミュニティガーデンの取り組みに全面的に協力しているのが、みどりネットKotoである。みどりネットKotoは、「みどりのまちを、みんなで作って、みんなで楽しもう！」をモットーに、主にコミュニティガーデンで区と協働して活動を盛り上げている。現在、会員は75人。リバーフェスタ、そらまめまつり、水彩フェスティバル、江東区民まつり等のイベントにも参加している。

緑にかかわるデータですが、江東区の公園面積は、23区内でも江戸川区、足立区、世田谷区の面積が

大きな区に次ぐ第4位。23区内唯一の国営公園(東京臨海広域防災公園)、都内随一の数を誇る6か所の都立公園(木場公園、猿江恩賜公園、夢の島公園、大島小松川公園、亀戸中央公園、東京臨海広域防災公園)、都立清澄庭園もある。そして区立公園が168か所。そんな公園の中、はたまた植樹帯、緑道等にあるコミュニティガーデンでは、四季を問わず花々と緑を区民や訪れる人々に提供しているのである。

さて、今回のお散歩は、深川公園の〈深川なごみの庭〉を皮切りに、深川1丁目庭園～亀堀公園～深川図書館～公園周辺の商店～清澄白河花壇を見学してきました。12月ですから花々の種類は限られる中、それぞれ手入れ良くきれいに植え込まれた花々と暖



深川公園花壇ここから出発



ステキな手作り旗の下でのお散歩

かな空間にホッとさせてもらいました。

最後に訪れた清澄白河の花壇では、美味しいハーブティーとチョコもいただき、笑顔の中、参加者ともども記念撮影。皆さんの笑顔はやはり花とみどりのおかげかなと思いました。ありがとうございました。

### ◆小平市・マジックむさし会～上水新町地域センター「ほのぼのひろば」



まずはステッキを鮮やかに取り出してスタート



音楽に乗って軽やかなカードマジック

12月中旬、生活会議のマジックむさし会(小平市)のボランティア活動を見学させていただきました。このマジックむさし会は、文字通りマジックを愛好する会ですが、講師の指導を受けて技に磨きをかけ、その成果を要望に応じてボランティアマジックとして年間25回ほど、学校、施設、イベント等で披露して好評を得ている。12月のボランティアマジックの予定は多く、この「ほのぼのひろば」のほか病院のデイケアセンターなど全部で5公演。それぞれ演者2～3人で30分前後行うのが基本という。今回は元気高齢者が集う小平市の上水新町地域センターの「ほのぼのひろば」の忘年会(クリスマス会?)での演技である。会場の上水新町地域センターは、東大和市駅から玉川上水に沿って落ち葉を踏みしめながら歩き、玉川上水河畔の緑とうまく接続した、木々に囲まれた緑豊かなロケーションにある施設でした。

小平市の「ほのぼのひろば」は、日頃交流の少ない高齢者を対象に身近な地域で気軽に集える場とし

て設置されていて、市内の15ヶ所の地域センター等を利用して趣味・創作活動などを行っています。自宅にひきこもりがちな高齢者の生きがいの場となることを目的として、ボランティアと民生委員、児童委員が運営に協力しています。

さて、マジックはテレビで見たことはあっても、なかなか実際に生で見る機会はないものです。日本では手品とも言われていますが、マギー 審司のびっくりデカ耳やハトが次から次へと出てくるマジックな

どなじみのあるものから、アシスタントが入った大きな箱に剣を突き刺し、開けてみると消えていなくなっているという大仕掛けのマジックまで、幅の広い世界があります。今回はそんなマジックを間近で見ることができるといことで期待して出かけました。

マジックといえば定番の軽快な「オリーブの首飾り」のメロディに乗って、カードや紐、ハンカチなどのマジックが次から次へと繰り出される。軽妙とまでは言えないまでも、日頃の鍛錬の賜物で着実な技を披露してくれる。観客からは歓声も上がり、拍手喝さい。やはり、テレビとは違う臨場感が味わえるのだから、ありがたい。マジックむさし会の現在の会員は、14人。メンバーの平均年齢も高くなり、御多分に漏れず世代交代が課題というが、奥の深いマジックの魅力、そしてそのマジックで笑顔なってくれる人がいる限り、やりたい人、仲間に入りたい人は間違いなくいるでしょう。私もチャレンジしたくなりました。素敵な時間をありがとうございました。

**▽ひとこと** 日本で一番有名な商店街は銀座通りでしょうか。何しろ、本家の銀座通りに倣い日本全国隈なくご当地銀座通りがあります。東京にだって、本家のほかに各地に〇〇銀座通りがありますが、俗に三大銀座通りと言われているのが①戸越銀座、②十条銀座、③砂町銀座。東京の変貌を考える上で格好の材料、好個のフィールドワーク対象です。商店街は、基本は地元住民のためにあり、地元以外の商店街を歩く機会はなかなかないものですが、今回いくつか歩いてみると特徴が顕著で、東京の変貌を目の当たりに見る感じもしました。その見聞については稿を改めますが、その一端をご紹介しますれば、①戸越銀座～商店街が尽きるところから見える大崎駅周辺の高層ビル群との対比にビックリ、②十条銀座～昔ながらの演芸場もある、いわば昭和の雰囲気色濃く残しながら活気あふれる様子にビックリ、でした。このほか、武蔵小山パルム商店街、一橋学園駅南商店街などを歩いてみましたが、地域の変化が反映していてビックリ。是非訪ねてビックリしてみてください。(竜)